

# 身近な地域素材で歴史の授業を組み立てよう ～「貴族がになった政治と文化」の授業実践～

藤岡市立小野中学校 関根真理

## 1 はじめに

今回私が挑戦した時代は、群馬県ではもっとも地域素材が少ないといわれている平安時代です。

教科書に登場する「最澄」をKeywordとして、東国といわれた地方から平安時代に迫る授業実践を試みました。

## 2 授業実践

教科書を元に「貴族の政治・武士の登場・唐風の文化から国風の文化へ」を概括した後に、

- ①教師側からの資料提示を行う
- ②生徒の課題設定への支援
- ③生徒の調べ学習への支援
- ④話し合いへの指導にはいりました。

### (1) 提示 群馬にも残る最澄の遺跡

Q1 天台宗を開いた最澄は群馬にきたことがあるだろうか。：YES

最澄がいつ何のために群馬のどこに来て何をしたのかを説明します。

- いつ 弘仁8年(817年)5月
- 何のために 天台宗の布教のために
- どこへ こうつげのくにみどのでら 上野国緑埜寺
- 何をしたか 法華経1000部を写し、その写経を宝塔に納め、上野国の大衆9万人の前で法華経を講じた。

この教師側からの提示は、意外性をねらったもので、これを元に生徒は課題の設定を行います。生徒が行う調べ学習は、時間内である程度の成果が出るよう、情報収集ができるものへと導くことが教師側からの支援となります。

### (2) 生徒の課題設定への支援 (一例)

A子：小学校でも調べたことはあったが忘れてしまったので、もう一度最澄について調べたい。

(←支援：最澄は何歳くらいでやってきて、それは最澄の一生の中でどんな段階だろうか?)

最澄の年表を作るとともに、ライバル空海との関係についても調べる。

B男：上野国緑埜寺とは今もあるのだろうか。

(←支援：宝塔についても、調べてみたら?)

上野国緑埜寺及び最澄ゆかりの宝塔について、調べる。

C男：最澄の話聞くために、9万人の人が集まった理由は何だったのだろう。

(←支援：当時の上野国の人々の生活についても調べると、意味がわかるかもしれない) 最澄の話聞くために集まった9万人の人たちの生活や願いを調べる。

### (3) 生徒の調べ学習への支援 (一例)

B男への支援にあたって

〈上野国緑埜寺及び最澄ゆかりの宝塔について〉

ア. 情報収集

- 文献資料については、資料収集のしやすさという点からすると生徒にとっても便利ですが、生徒が理解できるかが鍵となります。

#### 文 献

群馬県史・藤岡市史・遺跡の報告書

→ 詳しいが中学生には難解

多野藤岡地方誌・おにし鬼石町史

→ 資料は古いが生徒にはわかりやすい

群馬の歴史 → 詳しく使いやすい

藤岡の仏像・仏教の研究

→ 図版が多く、使い方によってはおもしろい

○インターネットでの資料収集は、生徒にとってはおもしろく、ときによい資料が入手できるのですが、なかなかの確な資料が集めにくく、時間が必要になるという欠点があります。

○人材活用は、生徒にとって必要な情報が集めやすいという点で効果的ですが、相手の方の都合もあり、FAXなどを併用し、用件が十分に伝わる工夫が必要です。

地域の歴史についての支援者

ア. 藤岡市文化財課の先生

イ. 群馬県立歴史博物館の先生

ウ. 群馬県埋蔵文化財調査事業団の先生

エ. 藤岡の仏像著者：奈良教育大の先生

イ. 資料のまとめ

○集めた資料の取捨選択については、あまり膨大な資料集にならない配慮が必要です。

自分の課題解決のために、思い切った取捨選択ができるよう指導を行いました。

**A子** く最澄の年表を作るとともに、ライバル空海との関係についても調べる。>

最澄と空海の比較年表（略）

### 《考 察》

○上野国に來たのは、ライバル空海が高野山こんに金剛峰寺こうぼうじを建てた翌年で、最澄51歳、亡くなる5年前のことだということがわかった。

○なぜ、空海は東国それも上野国に來たのか。  
平安時代のはじめ、桓武天皇から新しい仏教を期待され、奈良の仏教勢力と張り合っていた最澄。また、ライバル空海との親交をあきらめ、比叡山を中心に布教活動を行っていた最澄が、その勢力範囲を拡大したいと考えたことは理解できる。ではなぜ、東国だったのか。

○東国は当時の新天地だった。坂上田村麻呂さかのうえたむらまろの東国遠征に代表される蝦夷鎮圧えみしは、平安京の人々の最大の関心事であったと思う。開発も宗教的な文化面も、まだこれからという可能性がある場所だったと思う。ここに最澄は目を付け、

布教活動に向いたのではないだろうか。

**B男** く上野国緑埜寺及び最澄ゆかりの宝塔について調べる。>

緑埜寺は今、残っていない。また、緑埜寺跡もはっきりとした場所はわかっていない。が、宝塔は鬼石町に残っているらしい。

緑埜寺について

①地名は、藤岡市立平井小学校のあたりが「緑埜」という地名で残っている。奈良時代、律令制下の上野国14郡の一つに緑埜郡があり、緑埜寺とはこの緑埜郡にあった寺院という意味だと思った。

②発掘などの遺跡にはないのか

ア. 藤岡市文化財課へ問い合わせてH先生にお話を聞いた。

緑埜寺と思われる遺跡はないが、前に県が行った発掘で平安時代と思われる密教関係の鎮壇具ちんだんぐが出たと思う。緑埜寺に関係があるかもしれない。

群馬県立歴史博物館にあるのではないかと、群馬県立歴史博物館のH先生にお話を聞いた。

その話は知っているし、密教関係の仏具が出たと思うが、歴史博物館にはない群馬県埋蔵文化財調査事業団のS先生が発掘したと思うので話を聞くとよい。

ウ. 群馬県埋蔵文化財調査事業団のS先生にお話を聞いた

確かに、私が発掘したのもので、銅でできた華車香炉かしやこうろといわれるもので平安末から鎌倉時代にかけて作られたものと思う。しかし、一緒に出土したものから考えると、南北朝の室町平井城関係のものと考えている。

緑埜寺であるなら、吉井町から出土した平安時代の山岳寺院跡さんかくじいんや浄土庭園が見つかった藤岡市白石御堂遺跡しろいしみどうとの関係がおもしろいだろう。報告書を見るとよい。

エ. 藤岡市立図書館に報告書があるかどうか聞き、あるというので予約し、配本し

でもらうが、内容が難しく、先生に教えてもらおう。

どうも、緑埜寺ではないようだった。

宝塔について



この宝塔は、鬼石町浄法寺にある相輪塔のことらしいので、鬼石町で調べてみた。

○場所 浄法寺字平・浄土院墓地

○年代 平安時代（弘仁6年815年）創建

○由来 最澄は全国6か所、納経の所在地に宝塔を建立する発願を行い、存命中に完成したのは下野国大慈寺とこの浄法寺の2か所だけであった。その後、寛文12年(1672)年9月に改造、大正11年(1922年)台石を修理した。（青銅製）

C男〈最澄の話を書くために集まった9万人の人たちの生活や願いを調べる。〉

#### 奈良時代の関東地方のようす

広大な平野は未開発な場所が多く朝廷は渡来人を移住させ、その開発にあたらせた。

※711年：上野国多胡郡設置

防人として九州に行ったり、馬や兵を差し出すことが多かった。

#### 平安時代の関東地方のようす

8世紀末～9世紀前半には、蝦夷征伐のための兵として、東北地方に行くことがあった

9世紀後半には、関東の治安が悪化。群盗となり都に送る税を略奪する盗賊団出没する。

899年、碓氷峠が置かれ、取り締まりをはじめ。

10世紀前半、関東では平将門の乱が起こり常陸の国を占領。p.50参照

#### 最澄の教え（法華経の教え）

身分に関係なく、すべての人々は成仏できる。また最澄は、弘仁8年（817年）5月15日、広智と円澄を緑埜寺の前で灌頂し弟子としたという。

#### （4）話し合いへの指導

調べたことを元に、ねらいを明確にした話し合いを行いました。

最澄や平安時代初期の上野国のようすを考えよう

A子：最澄は、ただ比叡山にいて修行の仏教をしていただけでなく、未開の東国にも布教しようとしていたなんてビックリした。あと、身分に関係なく苦しい生活をしている民衆も浄土に生まれ変われるという教えが受け入れられたんだと思う。だから、9万人もの人が集まったんだと思った。

C男：関東地方は、当時、阪東とよばれる辺境の地で、人々は重い税で苦しんでいただけでなく、やっぱり都の貴族からは野蛮人として差別されていたんだと思う。そういういろんなものをバネに中世の武士団へとつながっていくんだと思った。

B男：そうだね、平安時代って平安京を中心とした貴族の摂関政治っていうイメージだったけれど、緑埜寺とか調べて、この藤岡にも「藤岡の平安時代の歴史」があるってわかったよ。まだ、どこにあったかが断定できないけれど、今後の発掘に待つっていうのも夢があつていいよね。

### 3

#### 成果と課題

今回、地域資料を通して、学び方に視点を当てた授業実践を行いました。生徒の学びを保障する授業は、支援と指導の教師自身の指導力が問われるものと感じます。

#### 成果

- ①課題設定に時間をかけたため、生徒にとって資料の集めやすい課題が設定できた。
- ②調べ方では、教師側の支援や指導を行ったため、時間内に情報収集ができた。
- ③ねらいを明確にした話し合いだったため、生徒の興味や理解の上にたった考えを導くことができた。

#### 課題

- ①生徒にとって、成果を上げる課題を設定するためには、生徒の関心や理解力以上に資料が入手できるかが大きいため、地域資料・人材を含めて、情報ネットワークを確立していく必要があると感じた。
- ②今回の課題解決学習は当初6時間予定で行うつもりだったが9時間を費やしてしまったため、このようなトータル的な実践ではなく、課題解決の過程の一部に焦点を当てる実践を年間計画に組み込むよう、ねらいなおす必要を感じた。